

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った運営を行うために、法人の理念を掲示している。	法人の理念に基づき、ホームとして、特に「利用者の持てる力を発揮できるように」「尊厳と自己決定を尊重して一人ひとりのライフスタイルを支援する」というケアに取り組んでいる。玄関やステーションに理念を掲示し日々の支援につなげるように心がけている。理念にそぐわない言動が見られた職員には管理者が個別に注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナの影響で地域の活動が中止されている。現在は会議の場で地域住民を交えて今後の相談をしたり、散歩などで近所の方々と挨拶などを行っている。	自治会に加入し区からの情報を頂いている。例年、地区で行われる夏まつりに参加したり、当複合施設で行う創立祭等を地域の方々にお知らせして交流を深める機会としていたが、本年はコロナ禍のために中止となっている。現在、日々の散歩やゴミ捨ての時に近所の方とあいさつ交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	第2グレイスフル岡谷にて「介護予防教室」の開催をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響にて郵送での対応をしている。今後は感染状況も確認しながら来設でのやり取りができるよう調整している。	例年であれば、区長、第三者委員(民生委員兼務)、介護相談員、市役所介護福祉課職員、諏訪広域連合職員、ホーム関係者の出席で3ヶ月に1回開催しているが、現在はコロナ禍にあり書面での開催となっている。意見等は電話にて頂きサービス向上に活かしている。今後は感染状況に応じて会議ができるように調整していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡谷市役所はじめ、諏訪広域連合と連携を図っている。電話等のやり取りで情報共有し、協力を求めている。	市介護福祉課とは電話連絡等で連携をとり、情報を共有している。介護認定更新時面接は短時間で実施しているが、グループホーム連絡協議会は中止となっている。市介護相談員の来訪も再開できるように場所の設定などを検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・不適切ケア防止委員会を中心に身体拘束をしないケアについて確認テストなどを用いて勉強会の実施などを行っている。	虐待・不適切ケア防止委員会を中心に法人としての研修を実施している。ホームとして拘束をしないケアについての確認テストを行い、職員自らがケアについて振り返りをし日々の実践につなげている。外出傾向の強い方にはきちんと傾聴したり、散歩にお連れして気分転換を図る等、また、それらを繰り返すことで少しずつ安定されているという。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為に勉強会を実施し、虐待防止に努めている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族より相談などがあつた際は、対応できるように制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をした後に1つずつ質問等の場を設け、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート調査を行い、意見・要望を取り入れたサービスができるよう努めている。	ほとんどの利用者が意見や要望を伝えることができる。意思表示の難しい方は表情や問いかけに対する反応により要望を受け止めるように心がけている。コロナ禍のために家族はウェブ面会やビニールカーテン越しの面会となっているが、徐々に時間や方法が改善されてきている。年2回の家族への満足度調査から意見を頂き、職員は情報を共有して日々のケアに活かすようにしている。毎月発行されるホーム便り、「だるま便り」は写真付きで日々の様子や活動状況を伝え、一人ひとりの様子もコメント付きでお知らせし家族に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやカンファレンスにて職員が提案できる場を作り運営に反映できるよう努めている。	月1回のフロア会議、カンファレンス、申し送り時に意見交換を行っている。法人として人事考課制度を導入したりチャレンジ目標を年度初めに立て、年度終わりに確認している。職員、リーダー、管理者との定期的な面談があり、課題を解決しながら意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の見直しを定期的に行っている。有休取得できるよう配慮したり、連続休暇が取得できる仕組みを設けている。上司からの面接やアドバイスを元に働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や研修に積極的に参加できるように呼びかけや面接を話し合いを行っている。勤務として参加できるよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で市内のGH連合会議が実施されておらず、他の法人の情報収集などが難しい。法人内の事業所の情報共有を行い、自施設でも展開できるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接などでご本人・ご家族からの要望や困っている事を聞き、生活での不安を取り除けるよう、職員間で情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や初回カンファレンスなどで傾聴し、安心してご利用いただけるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態に応じてカンファレンスを開催している。GHでの生活が困難になってくる場合は他のサービスも利用できる事をお伝えし支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除など出来ることを見つけ、職員のみだけでなく、ご利用者も一緒に行っていたりするように声かけなどして行っていたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や定期受診などで一緒に過ごせる時間を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な範囲で面会などの対応・WEB面会など実施し、交流の機会が途切れないよう努めている。	例年であれば家族や親せきの方の来訪時には、お茶をお出ししゆっくりできるようにしているが、コロナ禍により自粛状態が続いている。交流の場となっていた買い出し先のスーパーや味噌屋さんに出かけられない状況だが、再開して関係が継続できるように努めている。利用者全員で家族宛に年賀状を作成して年末に投函予定となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、関わるように心がけている。話題のきっかけで交流が深められるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、入院された方で退院後などの行先について経過のフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取り調査やつぶやきなども参考にし、ケアに活かせるようにしている。	ほとんどの利用者が思いを言葉で表出できている。表出できない方には表情を見ながら時間をかけて働きかけ、把握するようにしている。日常の中での利用者のつぶやきはパソコンに入力し職員間で共有しながら毎日のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族・関連機関への聞き取りを行いながらプロフィール表の活用をし、職員で情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	馴染みの生活ができるように情報共有を行い、プランに盛り込んでいる。統一したケアが行えるように対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、他職員から情報収集をして話し合いを行うように対応している。	一人の職員が1~2名の利用者を担当している。担当者は環境整備と共に日々の状況や課題を把握し他の職員からも情報を得てカンファレンスを行っている。家族の意見も伺い、全職員で検討してアセスメントを行い、6ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。状態に変化が見られた時にはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を元に、申し送りを実施。情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望等あった際はプランに反映し、サービスの対応ができるように努めている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物では地元の食材を買ったりしている。近所のみそ工場で味噌を利用者様と一緒に購入しに出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の病院やかかりつけ医への受診ができるよう対応し、支援している。体調不良時や相談事など電話連絡などと取り合っている。	ホーム利用前からのかかりつけ医がほとんどで、受診付き添いは家族が行い、ホームからは日々の様子等の情報提供をしている。緊急時の受診についてはホーム職員が対応している。若干名の方は家族が希望する医療機関の訪問診療を受けている。ホームとして訪問看護ステーションと契約しており毎週火曜日に看護師が来訪し、健康チェックや相談が行われ24時間オンコール対応ができています。必要時、協力歯科医の往診も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	市民病院の訪問看護ステーションより毎週1回訪問してもらっており、ご利用者の体調管理に努めている。24時間体制で対応しており、助言などをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はサマリーなどをお渡ししながら、密に連絡を取り、情報交換などに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針について説明を行っている。状態変化に応じて区分変更や他サービスへの申請等を行いながら新たな生活場所への準備を行っている。	法人のグループホームとしては看取りは実施しない方針である。申込時、契約時に重度化した場合の指針について説明し理解していただいている。状態の変化に合わせて利用者にあった生活の場に移れるように準備、支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルなどを元にして、勉強会の実施などをし、知識を身につけていけるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上建屋全体で避難訓練を実施。地域住民にも参加してもらっている(コロナによる影響あり)	年2回、複合施設全体で避難訓練を実施している。消防署には事前連絡をし緊急通報訓練や避難誘導訓練を行っている。火災を想定して利用者は2階から1階玄関先まで頭にタオル等をかぶって避難している。職員の連絡網については通勤距離も記入し、近くに住んでいる職員の把握もしている。近隣住民の協力については区長からの連絡で行っているが、本年はコロナ禍で参加が難しくなっている。食料品等の備蓄もあり定期的に法人エリア内栄養士による在庫確認がされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや話をする際に目を見たり、目線を合わせたりなどした対応を行っている。	法人としての接遇マナー研修が実施され、職員は自己評価票で接し方の振り返りを行っている。利用者の目線に合わせて人格を尊重した対応を心がけている。居室に入る時はノックをして「失礼します」と声を掛けてからプライバシーゾーンに入るように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	世間話などの普段の生活の中で選択して頂ける声掛けの工夫を行い、自己決定できる流れを作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴のタイミングはご本人にお聞きし、可能な範囲の時間帯、順番で対応できるようにケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの服など把握し、ご自身で服を選んでいただき、着替えを実施。化粧をするなど個々に合わせた支援を実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響で現在は一緒に買い物には行かれないが、ご利用者希望のメニューの日や内容も設けており、一緒に調理を行って頂ける工夫をしている。	ほとんどの利用者は自力で食事が摂れている。法人エリアで献立が決められ、行事や希望がある時には変更することもある。コロナ感染前、食材は利用者と職員が毎日、買い物に出かけていたが、現在はコロナ禍にあり職員が行っている。利用者は調理の準備から後片づけまで、力量に応じて職員と共に行っている。野菜の皮むき、切る、炒める、食器を洗う・拭くなどのお手伝いをしている。食事中はテレビを消してオルゴール等のBGMを流している。特別メニューでテイクアウトを利用したり、誕生日には手作りのケーキで楽しんでいる。秋には職員から柿の差し入れがあり、利用者全員で皮をむき干し柿づくりを行ったという。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器やコップ等が使いやすいものへ変更をしたり、摂取量の把握を行い、飲み物も好みの物へ変更したりし、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々でケアの仕方が違うため、合った支援を行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室担当、ケアマネと一緒に状態把握を行い、その方にあった排泄パターンなどを調べ、おむつを使わずに生活できるように取り組んでいる。	ほとんどの利用者が声がけをすることでトイレでの排泄ができています。布パンツとリハビリパンツの方は半数ずつでパットを使われる方もいます。職員は利用者の排泄パターンを把握しながら声がけのタイミングを計り、排泄介護用品が減らせるように取り組んでいる。トイレの場所は「トイレ」と表示したり「➡」表示でわかり易くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを確認しながら、食事の工夫、体操を行ったりし、訪問看護やかかりつけ医にも相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日などは決まっておらず、声かけをし、対応。時間は可能な範囲で工夫をしている。	週2～3日は利用者の気分に合わせて午前か午後に入浴できるようにしている。自力で入浴される方と全介助の方が若干名ずつで、あとの方は見守りや一部介助で入浴されている。入浴を拒む方には職員や時間を変えてお誘いしたり、「私はもう入ったよ」と他の利用者の言葉がけに助けられることもあるという。入浴剤は特に使用していないが、目でも楽しめるように去年は菊湯を行い、今年はゆず湯を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度・湿度の調整を行っている。ご利用者にお聞きし、安心して過ごせるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居室担当が中心になり、他の職員へ情報共有を行っている。また、カルテに処方された薬の内容の用紙を入れておくことで、確認しやすいように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プロフィール表や役割表、ご本人・ご家族からの情報を基に、得意なことなどを役割にし、できることを発見しながら支援を行っている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策を行った上で、個別でドライブなどを実施。毎日散歩に出かけている。	外出時、自力歩行の方が半数で、車いす使用の方が若干名、あとの方は歩行器を使用している。日常的には近所の公園まで散歩に出かけたり、ゴミ捨て外に出ている。スーパーへの買い物は今は自粛しているが、新型コロナウイルス感染対策をしてお花見やドライブにも出かけている。お盆には玄関入り口で全員で花火をして夏を楽しまれたという。ホームのテラスは陽当たりも良く、ベンチも置かれ、外気浴しながら気分転換を図れる絶好の場所となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在所持金を持っている方が少ないが、持たれている方は病院受診など際に使用されたりし、お金を使う場面を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自発的に話があった場合や職員からも声かけを行ったりし、定期的なやり取りを行っている。コロナの影響もあるのか、やり取りの回数は少なく感じる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理や換気を実施。季節の花や飾りなどをし、工夫を行っている。居室にはご家族の写真や落ち着いた装飾などをほどこしている。	玄関にはクリスマスリースや季節の花が飾られている。食堂兼ホールは広々として明るく、キッチンも使い勝手よく配置されている。陽当りの良いテラスは洗濯物を干したり外気浴や日光浴を楽しめる場所となっている。壁には利用者の作品やホーム便り「だるま便り」が見やすく掲示されている。ソファが3ヶ所に置かれており利用者が仲良く腰かけている姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食事席に誘導したりし、コミュニケーションが図れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅などで使用していた馴染みの物などを持参していただき、居心地のよい居室になれるように工夫をしている。	居室にはエアコンと洗面所が設置されており、そこに使い慣れたベットやタンス、ハンガーラックやテレビが持ち込まれている。タンスの上には家族の写真があり、誕生日のメッセージカードも飾られている。居室内は持ち物が使い易く整理され、利用者の居心地の良さに配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	役割表を作成し、個々のできる事をピックアップして行っていただいている。職員は見守りでもできる内容は積極的にご自身で行っていただけるように工夫している。		